



島歌1区町内会
会長

しんぼしずお
新保静夫さん

「町内会で助け合う」

いつも思ってることなんですけど、町内会の集まりのときに災害があったらどうするか話し合っておくことが大事だと思ってます。ここは目の前がすぐ海で、一人暮らしの高齢者世帯が多いから、誰が誰に声かけて一緒に避難するか決めておこうと思ってます。東日本大震災のときも津波警報が出てから、何人か落ち着くまで家で一緒にいたんですけど心細いと思うんだよね。「のどもと過ぎれば熱さを忘れる」じゃないけど、南西沖地震の後、リュックに懐中電灯やら乾パンやら備えてたけど今用意してないから、万が一に備えないとって、近所の人と話してたところ。高齢者を災害の時に町内会で助け合うっていう意識が大事だと思うよ。

新保さんは瀬棚消防団の副団長としても活躍されています。



大成消防団
班長

よしだ
吉田みささん

「災害はいつ起こるかわからないから…」

私は南西沖地震を経験してから、万が一に備えて普段から現金等貴重品をまとめてあるんですよ。なにかあった時は、それを持って逃げることにしています。災害が起きたら避難することが大事ですが、深呼吸して自分に落ち着くことを言い聞かせ一息つくつと、次に何をしたらよいか頭にちゃんと浮かんできます。大災害が起きるとそれまでの生活も環境も何もかも狂ってしまう…災害はいつ起こるか予測がつかないから、普段何かあった時どうすればいいのかわからない、そんなことをちょっと意識してみて、自覚を持って生活することが一番重要ではないかと思っています。それしかないんじゃないでしょうかね…

吉田さんは大成消防団の女性団員のまとめ役として活動されています。

有志の会（北檜山区）

「現地は真っ暗で…」

おおひがしとしのぶ
大東寿延さん

とにかく私たちの生活は満たされている、それに慣れてしまっただけで自分の感覚がにぶっているのではないかと、今の生活のままでいいのかわからない。宮古市に居る間はそんなことを考えさせられました。現地は何もありませんでした。夜は信じられないほど真っ暗なんです。戦後ってこんな感じかと思いました。万が一災害があったとき、灯りをとるもの、そして情報源となるラジオ、この2つの大切さが冷静になった今感じます。

「食料と携帯電話を！」

ほそかわしゅんじ
細川俊次さん

現地で感じたことは、まず食料だなと思いましたね。それから電気が通ってないから携帯電話の充電ができなくて、今じゃ携帯電話は災害時の必需品だから、充電できるものも用意しないとダメだなと感じました。普段から「食料」「電気が無くても数日最低限生活できる準備」「緊急時に連絡する手段の確保」この用意が必要だと思います。

お二人は、この度の東日本大震災直後、救援物資を届けたい、現地まで運ぶトラックを提供するという方々が集まった有志の会の皆さんの気持ちを届けに、3月23～25日の3日間、岩手県宮古市に行かれました。



株式会社 伊関組
土木課長

まつはしかつひと
松橋勝人さん

「その立場に立って…」

私は東日本大震災のあった約1か月後、会社を代表し6人で宮城県岩沼市の瓦れきの撤去作業を行いました。私が作業をした場所は道路を1本隔てて、向こう側はテレビで見ると瓦れきが広がる何も無くなった地域。そしてこちら側は家の中の瓦れきや泥を撤去すればなんとか生活できる地域という自然の恐ろしさを感じられずにはいられない場所でした。防災の日に改めて感じるんですけど、南西沖地震を経験した私たちは、災害の恐ろしさを身をもって知っていますよね。今現実に被災されている方々の気持ちを少しは分かるわけですから、その立場に自分の身を置いてみる、とにかくその立場になって考えると、家族や大切な人を守るための準備を自然に考えられるのではないのでしょうか。

松橋さんは、この度の東日本大震災後、4月8～13日の6日間、宮城県岩沼市において瓦れきの撤去作業などボランティア活動をされました。

「訓練」する。

7月19日若松小学校で地震災害を想定した、避難訓練が行われました。

9時45分地震が発生、机の下に隠れ、落ち着くのを待ち、先生の指示に従いグラウンドに避難。その後、訓練中の良かったところ、少し注意が必要だったところの講評が消防職員からありました。

この日は訓練の他、3月11日の東日本大震災で岩手県山田町へ災害復興の支援のため派遣された防災担当職員が「津波がきたらとにかく高いところへ逃げる」「自分の身は自分で守る」この大切さを話し、子供たちも真剣に聞き入っていました。

各町内会や学校でも避難訓練が行われていると思います。今一度訓練により避難経路の状況など確認してみたいかがでしょうか？



「話し合おう」です。

家庭や地域で、日ごろから災害に対する心構えを持つことも大切です。災害が起きたとき家族と一緒にいるとは限りませんが、仕事をしているときや、外出しているときに起こるかもしれません。お互い連絡がとれなくなった場合の相談や確認をしておくことが大切です。

町では、今後起こりうる自然災害で、皆さんが災害発生時に適切に対応いただけるよう、もしものときに被害が予想される地域や危険区域などを地図にした「防災マップ」と、災害に対する準備や注意、屋内外のチェック

ポイントなどが書いてある「防災のしおり」を、3月に皆さんのご家庭に配布しました。避難所や防災関連施設の連絡先なども書いていますので、日頃から目の届く場所に保管し、そしてこの機会に今一度ご覧いただきながら、ご家庭や職場で話してみませんか？



※訂正
広報5月号でお知らせしておりますが、瀬棚地区防災マップ（津波災害の避難所より、10番の漁火公園を削除していただきますようお願いいたします。

大切な家族やパートナー、そして自分のために
「まずは、できることから。」